



学校だより

平成30年度 3月号

～ひとがすき まちがすき いわさきの子～
横浜市立岩崎小学校 電話 331-5123 FAX 331-5343



学校・はまっ子・家庭の連携のもとで

校長 杉原 龍司

例年に比べことのほか寒さが厳しかった2月も終わり、春めいた暖かさも感じられる日が増えてくるに従い、スギ花粉の飛散がニュースとなる時期となりました。岩崎小学校でも1月から猛威を振るっていたインフルエンザの流行もやっと収束に向かいつつあるようです。

さて学校の中にいると、授業が終わって子どもが教室を出てしまうと学校生活の一日は終わり、ということになります。子どもの生活というのは当然ながら放課後の、そしてご家庭での生活も含めて途切れることなくつながっています。学校で様々な事を教えるだけでは子どもたちの健全な成長は望めません。例えば給食は一日の食事の3回の内の1回ですし、栄養バランスや食事のマナーなどは、ご家庭との連携・協力がなければ身に付きません。同様に学習内容をよりしっかり子どもたちにとらえさせるための家庭学習も、漢字練習や計算練習のように、ご家庭でのご協力が欠かせません。また、放課後は暗くなるまで公園で友だちと自由に遊んでいられる、というかつてのような社会状況でもない現状があります。

そう考えると、岩崎小学校にとっては「はまっ子」が大きな意味をもっていることがわかります。はまっ子は、「すべての子どもたちにとって安全で豊かな放課後の居場所を確保する」という観点から横浜市が行っている事業です。それは都市である横浜の子どもたちにとっては大きな意味があることはもちろんですが、特に岩崎小学校のはまっ子でいうとその特徴は、その参加人数の多さです。毎日平均100名以上の子どもたちが参加しており、これは全校児童の約1/3に当たります。参加率は横浜市でもトップクラスではないかと思えます。任意参加のはまっ子にこれだけの子どもたちが毎日参加し続けるということは、それだけ岩崎小学校のはまっ子が子どもたちにとって大きな魅力があるということだと思います。それはチーフの中田さん、馬場さん以下のアシスタントの皆さんが、しっかり見守ってくださっているからこそであり、子どもたちはその庇護のもと、安心してはまっ子の時間を異学年交流の遊びの場として過ごすことができるからだ、と思います。

子どもというのは、教師の前で見せる授業中の姿が、全てではありません。休み時間、あるいは教師のいないところで見せる姿は、様々です。放課後、はまっ子で見せる姿も授業中とは違う姿でしょう。でも、どちらの姿もその子の姿なのです。一人の子をトータルでとらえ、よりよい成長に導いていくために、岩崎小学校では今までも、これからも、はまっ子と密接な連携をもって、子どもたちを見つめ、とらえてまいります。

教育の場で長時間過ごすことが多くなっている現代の子どもたちを、学校、はまっ子、家庭がより連携していくことが、子どもたちの成長を助けることになると確信しております。今後共どうか岩崎小学校の教育活動にご協力、ご支援いただけますよう、お願い申し上げます。